



# ロバート・N・バトラーの横顔

## ヴァル・J・ハラマンダリス

Val J. Halamandaris  
Eastern Utah 大学教授

1990年、高齢化社会問題と闘う16人の先駆者達を紹介する本が出版された。この16人の中に、米国センターのバトラー博士も選ばれた。博士がいかに高齢化の問題に取り組んできたかについてが、著者のハラマンダリスによって、印象深く描かれている。

アメリカが直面する大きな問題として、高齢者のケアが浮かび上がってきている。何年もの間、ロバート・N・バトラー博士は、graying of America（アメリカの高齢化）に注意を向けるよう警告の声を上げてきたが、注意を向ける者はいなかった。最近、ようやく、人々は彼が語る「老人人口の爆発」に耳を傾け始めた。高齢者の数は、2010年までに40%増加し、アメリカの人口の約20%が65歳以上になる。「シニア・パワー」が生まれ、力をつけてきている。老人人口が増えるにつれ、社会保障、適切な住居、健康管理などの問題への関心も増している。アメリカの人口でいちばんのスピードで増しているのが、老人なのである。

バトラー博士は、老年医学と高齢化を担う現代の革命家である。彼は老人に対する不正に声を上げ、大衆の良心であり続けている。医学と社会両面の問題の解決を探究するシャーロック・ホームズ顔負けの研究者であり、同時に科学者である。そしてアメリカの偉大な治癒者であり、老人のための医学体制に対する警鐘者である。

### ■ NIA(国立老化研究所)時代

1975年にフランク・モス、トーマス・イーグルトンの両上院議員とクロード・ベッパ下院議員の提唱で設立されたNIAの目的は、高齢化の過程と、老人に影響を与える病気についての生医学的研究と行動研究であった。

NIA所長として、彼は、多くの印象に残るプログラム作成とコンファレンス開催の先頭に立った。精神衛生と高齢化に関する全米コンファレンスの決議のいくつかは立法化された。その中には老人医療保障（メディケア）でカバーされる精神衛生への給付金の幅を広げる法も含まれている。

1978年には、ソ連を訪問し、ソ連の医学者と、コーカサス山脈と黒海の間にある山岳の共和国アプカジアに住む長寿の人々の共同調査を行った。

1980年、彼はベッパ議員とともに一連の癌と高齢化の国際会議の最初の主催者になった。この会議はノーベル賞受賞者を含めて、世界の頭脳を一堂に集め、研究結果を分かち合い、議論しあう会議であった。

この研究所が、「老衰は高齢化の過程で自然に生ずる」という神話を打ち破る研究を行ったことは大きな成果であった。バトラー博士は、「まず第1に、老衰は自明のものではない、第2に、動脈硬化ではない、第3に、老衰は主として、アルツハイマー病によって起こるものである」と述べている。

### ■ マウント・サイナイ老年医学部の創設

1982年、マウント・サイナイ病院と医科大学は、全米ではじめて完全な老年医学部を設立、バトラー博士は学部長に任命された。専門医紹介のための診断、老人医療の臨床実験、積極的リサーチ・プログラムを持ち全ての医学生が入院患者、外来患者両方の老人医療を行うという包括的な方針を打ち出し、医者、医学生、インターンが患者の家を訪問するという野心的プログラムも取り入れられた。

彼は、カリキュラム作成委員も務め、現在医学部の最初の2年間は、高齢化の一般的問題に関する教育も行っている。全ての医学生は、4年目に老人病の臨床プログラムで、

4週間の研修をすることになっている。医学部カリキュラムの基本的目的は、専門家の間に老人医療の実践に関する知識を広げることである。

#### ■ バトラー博士の意見

長年の研究と、高齢化の分野での経験から、バトラー博士は、今日老人が直面している問題に鋭い洞察力を持っている。

アメリカが老人問題への認識を増し、長期ケアの問題に注意を向けるようになってきたのは喜ばしく、ナーシング・ホームのケアの質を改善する法も制定されたと彼は言う。

「遂に、強制的な退職が実質的に終わった」が、退職金・年金が不十分であり、老人の生活の質を改善するのに、未だ道は遠いと彼は考えている。「年寄りの3割が今、貧困のレベルかそれに近いところで暮らしている。これは受け入れ難い。未亡人は特にひどい状況である」

彼は、また住居問題のことも述べた。「老人の約3割しか、標準以下の住宅で暮らしていないというのは、7割が自宅を持っているという統計の誤用に根ざした誤解である。自宅といっても、それらの家の多くが古く修繕を必要としているという事実を無視している。彼らは修理を自分自身ですることもできず、そのお金を工面することもできないでいる。上昇する固定資産税や高い家賃は、老人を苦しめている。結局屋根を葺くか、食物や薬のような不可欠なものどちらを取るか、の選択を強いているのである」

彼は老人の健康問題に関して、退歩しているところもあると懸念し、長期ケア、在宅ケア、デイ・ケア、ナーシング・ホームのケアをカバーする老人医療保障が必要であると訴える。

もし将来、大統領が彼を厚生省長官に指名したとしたら

と聞かれた時、彼はこう答えた。「まず第1に、健康に関するプログラムを広げなくてはならない。エイズや現在認知できる病気以外の分野へも調査対象を広げるべきだ。エイズは、我々に貴重な教訓を与えてくれた。人間と微生物の間には、終わることのない闘いがあり、新しいウイルスを隔離し、理解するのに必要な資金を投じなければならないという教訓である。第2に、増大する長期ケアの問題を何とかしなければならぬ。第3に、環境問題に取り組む必要がある。人々に自分の健康生活に注意せよ、と忠告するだけではいけない。我々は、空気や水の公害を止める責任がある。そしてこれは、一つの省庁でできるものではなく、幅広いフレームワークを作らなくては達成できない」

彼は、国の長期ケアの必要にみあう最善の解決策として、在宅ケアを提唱している。在宅ケアが医療費を軽減していることはデータが証明している。入院から回復して戻った慢性の病人、急性の病だが病院外で治療可能な人々、身体の機能が衰え、友人や親戚を失って残された心の空所を満たす助けが必要な人々に、在宅ケアが与えられるべきだと彼は考える。

彼は1989年、重い障害に苦しむ独り暮らしの老人を援助する、長期ケア・在宅ケアの恩恵を与える老人医療保障(メデイケア)の拡大を提案した。彼はその提案について、「我々は、議論の余地のない人々のために援助を与えることを要求した。彼らは、ひどい状況で、助けが必要なことは明らかである。我々の提案は、これらの人々のために、老人医療保障(メデイケア)のもとでデイ・ケアと在宅ケアサービスを認めることになるだろう」と述べた。

バトラー博士にとって調査は、米国の健康において特別に重要なものである。「調査は、人々をある特別な病気から

防ぐという意味で究極のサービスである。また、治療にお金を費やす必要がなくなり、コストの抑制にもなるということでも究極のものである。過去数年、我々は老衰はないということを見出した。老衰と呼んでいたものは病気の複合であり、それらの多くが治療できるものである。例えば、アルツハイマー病は、脳のなかに見出される神経化学物質の複合的な不足であることを学んだ」彼は議会に対し調査の重要性を強調してきた。ナーシング・ホームの必要性を減らす見込みもあると彼は考えている。「今のところナーシング・ホームは必要である。それらをただ消してしまうことはできない。しかし、アルツハイマー病は老人医学におけるポリオであることが認識でき、その治療方法が発見できるならばナーシング・ホームの必要性を減らすことができる」

老人問題の多くが本質的に社会的なものである。精神的な落ちこみ、希望の喪失感、自分は不要だという意識が、しばしば、肉体的な症状となって現れてくる彼は力説する。老人問題の多くが、寂しい思いと、愛されていないと感じることから生じてくるという。「我々は、年をとるということの哲学を持っていない。自分自身をどう導くかというガイダンスを与えてくれる規範もない。結果として多くの年寄りが、寂しく、見捨てられたと感じる。解決は、愛と人々との間の会話のある交流を発展させることを通して、見出されるに違いない。我々の社会と施設のなかで、慈しみと愛を育てる道を見つけなければならない」

長年の調査によって、老人はもし機会が与えられれば、社会で活動的な役割を担うことができるという信念を彼はずっと抱いている。今後は年とった働き手の技量が、より高く評価されると見ている。社会で若者と老人との自然な結びつきも見られるだろうと信じている。「年とった人は、貢献

できるものを沢山持っている。老人に意義のある仕事を与えることが、個人にも企業にも配当金を生む、ということに皆が気が始めた。老人は特に、先生やカウンセラー、我々の文化遺産や自然を守るような仕事に向いている。司法や行政においても、力を発揮するということがすでに証明されている」

上手に年をとる鍵は何かと問われて、「老人は活動家であるべきだと思っている。人は人生の最後の最後まで、成長し、働き、学び続けなくてはいけない。人生に目標を、毎日の生活にいくつかの目的と枠組を持っている人は、長生きする。人は目標をもつべきだ。その目標が、自己をはるかに超えたものであり、社会的に利益となるものであるなら、更に良い」

自分がどのように人々に記憶されてほしいかと問われて、「老人だけでなく、全ての人々のために、人生の質の向上を目指した人として。結局、人生は連綿と続くものなのである。——今日の老人は、かつて若者で、今日の子どもたちは、ある日には年寄りになるのである」

7歳のとき、医者になり年寄りの手助けをすると誓って以来、バトラー博士は、彼の夢の多くを実現した。1992年に65歳の誕生日を迎えるが、その年齢は、これからの彼の活動の妨げとはならないであろう。彼は、自分の全人生を、「素晴らしくプロダクティブ」なものにすると約束している。

『Advocates for the Elderly』(1990)